

インテル® VTune™ パフォーマンス・アナライザ 7.2

インストール・ガイド

◆ 重要 ◆

製品をインストールするには、有効なライセンス ファイルが必要です。

製品をインストールする前に、本書を必ずお読みいただき、有効なライセンス ファイルを入手してください。

詳しくは、1 ページの「インストールの前に、製品の登録が必要です」をご参照ください。



エクセルソフト株式会社

www.xlsoft.com

インテル® ソフトウェア開発製品へようこそ

インテル® ソフトウェア開発製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。製品のインストール前に、以下の説明を必ずお読みください。

このインストール・ガイドでは、製品のインストールについて説明します。

注意: このバージョンをインストールする前に、インテル® VTune™ パフォーマンス・アナライザの以前のバージョンを必ずアンインストールしてください。詳細は、9 ページの「インストール」セクションを参照してください。

Microsoft* の INTDIA80.DLL ファイルはベータ版です。製品版として利用しないでください。詳細は、9 ページの「インストール」セクションの「Microsoft .NET テクノロジーのサポート」を参照してください。

[インテル® ソフトウェア開発製品の Web サイト \(英語\)](#) を開いて、この製品のリリースノートの最新バージョンを入手してください。

1. インストールの前に、製品の登録が必要です

製品をインストールするには、有効なライセンス ファイルが必要です。インストールを行う前に、製品のシリアル番号をインテル® レジストレーション センターに登録し、最新のライセンス ファイルを入手してください。

注意: 購入された製品がシングル ユーザー ライセンスの商用版 CD-ROM バージョンの場合、CD 内に含まれているライセンス ファイルにて製品をインストールできますが、最新版へのアップグレードや技術サポートを受けることはできません。

製品を登録することで、次のサービスをご利用いただけます。

- 最新版の入手
- 技術サポート
- 技術情報および文書

2. 製品の登録方法

1. インテル® レジストレーション センターのサイトへ行きます。

<http://www.intel.com/software/products/registrationcenter/> (英語)

登録方法の日本語での詳細は、下記のサイトをご参照ください。

<http://www.xlsoft.com/jp/products/intel/support/premier.html>

注意: 製品の登録には、製品のシリアル番号が必要です。購入された製品が CD パッケージの場合、パッケージの内部にシリアル番号 (4 桁-8 桁) が貼付されています。

2. 登録後、登録した E メール アドレスにライセンス ファイルが送信されます。このライセンス ファイルをご

利用のシステムに保存します。

3. 製品のインストールを開始します。インストールの途中で、システムに保存したライセンス ファイルを指定します。

3. 動作環境

インテル® VTune™ パフォーマンス・アナライザ 7.2 は、このセクションで説明される要件を満たすシステム上で実行されることを想定しています。対応している開発環境については、この後のサブセクションでも詳しく説明します。

注意: インテル VTune アナライザは、ローカルとリモートの 2 つのモデルをサポートしています。ローカルモデルは、解析が行われるシステムと解析を行うシステムが同じ、単一システム用です。リモートモデルでは、2 つ目のシステム (リモート・エージェント・システム) にデータコレクタがインストールされ、インテル VTune アナライザがインストールされている制御システムにデータ収集結果が送られ、表示されます。

以下の要件は、ローカルモデルの単一システムおよびリモートモデルの制御システムに適用されます。リモートモデルのリモート・エージェント・システムの要件については、4 ページを参照してください。

最小ハードウェア要件

以下のハードウェア要件は、ローカル解析の単一システムに適用されます。また、リモート解析に 2 つ目のシステムを使用している場合、その制御システムにも適用されます。どちらの場合も、このシステムにインテル VTune アナライザをインストールします。

最小対応プロセッサ:

- インテル® Pentium® III プロセッサ (またはそれ以上)
- インテル® Itanium® プロセッサ (B3 またはそれ以上)

対応プロセッサ:

- インテル® Celeron® プロセッサ
- インテル Celeron D プロセッサ
- インテル Itanium プロセッサ
- インテル Itanium 2 プロセッサ
- 低電圧版インテル Itanium 2 プロセッサ
- インテル Pentium 4 プロセッサ エクストリーム・エディション
- インテル Pentium III プロセッサ
- インテル Pentium III プロセッサ – S
- インテル® Pentium® III Xeon™ プロセッサ
- インテル Pentium 4 プロセッサ
- インテル Xeon プロセッサ
- インテル Xeon プロセッサ MP

インテル® エクステンデッド・メモリ 64 テクノロジ (インテル® EM64T) 対応のインテル® プロセッサ。

対応モバイル・プロセッサ:

- モバイル インテル Pentium III プロセッサ - M
- モバイル インテル Pentium 4 プロセッサ - M
- インテル Pentium M プロセッサ
- インテル Celeron M プロセッサ
- モバイル インテル Celeron プロセッサ

システムメモリ:

RAM 128MB 以上

空きディスク容量:

- ローカルドライブ: 92MB 以上。
- システム・ディレクトリを含むドライブ (例えば C:¥): 20MB (システムファイル用)。

注意: この追加ハードディスク容量は、インテル VTune アナライザが参照するシステム・ディレクトリの DLL と OCX の更新およびインストールに必要です。インテル VTune アナライザをシステム・ディレクトリを含むドライブ以外のドライブにインストールする場合でも、システム・ディレクトリを含むドライブに 20MB 以上の空き容量があることを確認してください。

リモート Linux* マシンのハードウェア要件:

- RAM 32MB 以上
- ローカルドライブ: 20MB 以上。

最小ソフトウェア要件

以下のソフトウェア要件は、ローカル解析の単一システムに適用されます。また、リモート解析に 2 つ目のシステムを使用している場合、その制御システムにも適用されます。どちらの場合も、このシステムにインテル VTune アナライザをインストールします。

注意: 以下のすべてのケースで、仮想メモリのページング ファイル サイズを Microsoft* Windows* が推奨するサイズ以上に設定してください。推奨するサイズ未満のサイズが設定された場合、インテル VTune アナライザが正常に動作しなくなることがあります。

IA-32 プロセッサをサポートしている 32 ビット Windows オペレーティング・システム:

- Microsoft Windows XP Professional Edition
- Microsoft* Windows Server* 2003 ファミリ

インテル Itanium アーキテクチャ・プロセッサをサポートしている 64 ビット Windows オペレーティング・システム:

- Microsoft Windows XP 64-Bit Edition Version 2003
- Microsoft Windows Server 2003 ファミリ

インテル EM64T 対応インテル・プロセッサをサポートしている 64 ビット Windows オペレーティング・システム:

- Microsoft Windows XP Professional x64 Edition (ベータ版ビルド 1218 で確認)
- Microsoft Windows Server 2003 ファミリ (ベータ版ビルド 1218 で確認)

コマンドラインのサポート:

インテル VTune アナライザの多くの機能をコマンドラインから利用できます。コマンドライン・インターフェイス用の (OS) ソフトウェア要件は、ローカル モデルの要件とほぼ同じです。

リモートモデルのリモート・エージェント・システムの要件

このサブセクションでは、リモート・サンプリングおよびリモート・コールグラフ・プロファイリングを行う、オプションの 2 つ目のシステム (リモート・エージェント・システム) の要件について説明します。

リモートモデルのリモート・エージェント・システムのハードウェア要件:

制御システムのハードウェア要件と同じです。詳細は、上記の「最小ハードウェア要件」セクションを参照してください。

インテル® DBPXA25x/26x 開発プラットフォーム (Intel XScale® テクノロジーを搭載したインテル® PXA25x/26x プロセッサに対応)、またはインテル® DBPXA27x 開発プラットフォーム (インテル® PXA27x プロセッサ B0 以降のシリコンに対応) におけるデータ収集に必要なハードウェア要件は、「VTune™ Performance Analyzer Update for Intel XScale® Technology Release Notes」を参照してください。

リモートモデルのリモート・エージェント・システムのソフトウェア要件:

インテル DBPXA25x/26x 開発プラットフォーム (Intel XScale テクノロジーを搭載したインテル PXA25x/26x プロセッサに対応)、またはインテル DBPXA27x 開発プラットフォーム (インテル PXA27x プロセッサ B0 以降のシリコンに対応) におけるデータ収集に必要なソフトウェア要件は、「VTune™ Performance Analyzer Update for Intel XScale® Technology Release Notes」を参照してください。

制御システムで必要なオペレーティング・システム以外にも、いくつかの Linux オペレーティング・システムでリモート解析がサポートされています。

Linux 上のリモート・コールグラフ:

このバージョンのインテル VTune アナライザは、次の 32 ビット・プロセッサ対応の Linux システム上でリモート・コールグラフ・プロファイリングをサポートしています:

- Red Hat* 7.3
- Red Hat 9 (+ パッチ ... 下記を参照)
- Red Hat Advanced Server 2.1 (AS2.1)
- Red Hat Enterprise Linux 3.0
- SuSE* 8.2
- SuSE 9.0
- SuSE Linux Enterprise Server 8 (SLES 8)

上記のオペレーティング・システムの他に、GLIBC バージョン 2.2.2、2.2.4、2.2.5 または 2.3.2 のいずれかのバージョンが必要です。

Red Hat 9 上でコールグラフを使用するには、次のパッチをインストールする必要があります (注: 新しいバージョンのパッチも使用できます)。パッチは、<https://rhn.redhat.com/> (英語) からダウンロードできます。

- 次のエラッタカーネルのいずれか:
 - kernel-2.4.20-20.9.*.rpm
 - kernel-smp-2.4.20-20.9.*.rpmサンプリングを使用する場合、カーネル・ソース・パッケージ kernel-source-2.4.20-20.9.*.rpm をダウンロードしてインストールする必要があります。
- GLIBC* および関連パッケージ:
 - glibc-2.3.2-27.9.*.rpm
 - nptl-devel-2.3.2-27.9.*.rpm
 - glibc-common-2.3.2-27.9.*.rpm
 - glibc-debug-2.3.2-27.9.*.rpm
 - glibc-utils-2.3.2-27.9.*.rpm

プロファイルするアプリケーションは、次のいずれかのコンパイラでビルドされていなければなりません:

- GCC* 2.96
- GCC 3.2
- インテル® C++ コンパイラ 7.0、インテル® Fortran コンパイラ 7.0
- インテル C++ コンパイラ 7.1、インテル Fortran コンパイラ 7.1
- インテル C++ コンパイラ 8.0、インテル Fortran コンパイラ 8.0

このバージョンでは、インテル Itanium アーキテクチャをサポートする Linux システムとして、Red Hat Advanced Server 2.1、Enterprise Linux 3.0 および SuSE Linux Enterprise Server 8 のみをサポートしています。

Linux 上のリモート・サンプリング:

IA-32 プロセッサ対応の Linux システムにおけるリモート・サンプリングをサポートするカーネルのバージョンを次にリストします。リストされている Linux カーネルは、特に明記されている場合を除いて、ユニプロセッサ・システム (UP) とマルチプロセッサ・システム (SMP) の両方で利用可能です:

- 2.4.9-e.3 (Red Hat Advanced Server 2.1)
- 2.4.18-3 (Red Hat 7.3)
- 2.4.18-14 (Red Hat 8)
- 2.4.20-8 (Red Hat 9)
- 2.4.21-4.EL (Red Hat Enterprise Linux 3.0)
- 2.4.22-* .nptl (Red Hat* Fedora* Core 1)
- 2.4.19-{4GB, 64GB-SMP} (SuSE Linux Enterprise Server 8)
- 2.4.20-{4GB, 64GB-SMP} (SuSE 8.2)
- 2.4.21-99-* (SuSE 9)

インテル Itanium 2 プロセッサ対応の Linux システムにおけるリモート・サンプリングをサポートしているカーネルのバージョン:

- 2.4.18- e.12 (Red Hat Advanced Server 2.1)
- 2.4.19-{-SMP} (SuSE Linux Enterprise Server 8)
- 2.4.21-4.EL (Red Hat Enterprise Linux 3.0)

インテル EM64T 対応のインテル・プロセッサを使用している Linux システムにおけるリモート・サンプリングをサポートしているカーネルのバージョン:

- 2.4.21-15.EL (Red Hat Enterprise Linux 3.0)

リモート・サンプリング・データ収集に必要なドライバ:

上記で明示的にサポートされていない Linux カーネル・バージョン用に、リモート・サンプリング・データ収集に必要なドライバをビルドするには、このリリースに含まれている「VTune™ Performance Analyzer Driver Kit」を使用します。

- 「VTune™ Performance Analyzer Driver Kit」を使用して特定の Linux カーネル用のドライバをビルドするには、GCC バージョン 2.96 またはそれ以降が必要です。
- 「VTune™ Performance Analyzer Driver Kit」のアップデートは、<http://www.intel.com/software/products/opensource/vdk/> (英語) から入手できます。

Linux を実行しているシステムのリモート解析用の追加ソフトウェア要件:

- Linux リモート・データ・コレクタをインストールするには、RPM バージョン 4.0.2 またはそれ以降が必要です。
- Linux リモート・データ・コレクタでサンプリングを行うには、GLIBC バージョン 2.2.2 またはそれ以降が必要です。

対応コンパイラと開発環境

インテル VTune アナライザは、正しいデバッグシンボルが利用可能な場合、次のコンパイラと開発環境を使用して生成されたアプリケーションをサポートします (詳細は、インテル VTune アナライザのオンライン・ヘルプを参照):

Itanium プロセッサ・ファミリ開発環境:

コンパイラ	ソースビュー	コールグラフ	ソース・レベル・チューニング・アシスタント
インテル C++ コンパイラ	はい	はい	はい
Linux 版インテル C++ コンパイラ	はい	はい	いいえ
インテル Fortran コンパイラ	はい	はい	はい
Linux 版インテル Fortran コンパイラ	はい	はい	いいえ
Microsoft* .NET Framework* 1.0 / 1.1/ 2.0 ベータ 1	はい	はい	いいえ

コンパイラ	ソースビュー	コールグラフ	ソース・レベル・チューニング・アシスタント
Microsoft Platform SDK (2003 年 10 月以降のバージョン)	はい	はい	はい
BEA* WebLogic JRockit* 8.1 SP1/SP2、1.4.2 (Windows) および JRockit 1.4.2 (Linux)	はい	はい	いいえ
IBM* JDK* 1.3.1 (Windows および Linux)	はい	はい	いいえ
Sun* JDK* 1.4.1 / 1.4.2 (Linux のみ)	はい	はい	いいえ

インテル VTune アナライザは、Microsoft Platform SDK の 2003 年 10 月バージョンで動作を確認しています。

注意: ソース・レベル・チューニング・アシスタントは、デフォルトでは無効です。有効にするには、メインメニューから [Configure] > [Options] を選択して、オプション・ツリーから [Intel(R) Tuning Assistant] > [Source Information] を選択し、オプション [Disable source-based tuning advice] のチェックを外します。

IA-32 開発環境:

コンパイラ	ソースビュー	コールグラフ	ソース・レベル・チューニング・アシスタント
Microsoft* Visual C++* 5.0 / 6.0 / .NET	はい	はい	はい
Microsoft .NET Framework 1.0 / 1.1/ 2.0 ベータ 1	はい	はい	いいえ
Microsoft* Visual C#*	はい	はい	いいえ
Microsoft* Visual J#*	はい	はい	いいえ
インテル C++ コンパイラ	はい	はい	いいえ
Linux 版インテル C++ コンパイラ	はい	はい	いいえ
GNU* Project C/C++ Compiler for Linux*	はい	はい	いいえ
Microsoft* Visual Basic* 5.0 / 6.0 / .NET	はい	はい	いいえ
Borland* C++ Builder* 5.0	はい	はい	はい
Borland C++ Builder 6.0	はい	いいえ	いいえ
Delphi* 5.0 / 6.0	はい	はい	いいえ

コンパイラ	ソースビュー	コールグラフ	ソース・レベル・チューニング・アシスタント
IBM JDK 1.3.1 (Windows および Linux)、 1.4.0 / 1.4.1 (Linux のみ)	はい	はい	いいえ
Sun JDK 1.4.1 / 1.4.2 (Windows および Linux)	はい	はい	いいえ
BEA WebLogic JRockit 8.1 SP1/SP2 およ び 1.4.2 (Linux および Windows)	はい	はい	いいえ
Microsoft* Jview*	はい	はい	いいえ
インテル Fortran コンパイラ	はい	はい	はい
Linux 版インテル Fortran コンパイラ	はい	はい	いいえ

注意: ソース・レベル・チューニング・アシスタントは、デフォルトでは無効です。有効にするには、メインメニューから [Configure] > [Options] を選択して、オプション・ツリーから [Intel(R) Tuning Assistant] > [Source Information] を選択し、オプション [Disable source-based tuning advice] のチェックを外します。

インテル EM64T 対応 IA-32 プロセッサ開発環境:

コンパイラ	ソースビュー	コールグラフ	ソース・レベル・チューニング・アシスタント
インテル C++ コンパイラ	はい	はい	はい
Linux 版インテル C++ コンパイラ	はい	いいえ	いいえ
Microsoft .NET Framework 1.0 / 1.1/ 2.0 ベータ 1	はい	はい	いいえ
Microsoft Platform SDK (2003 年 10 月以降の バージョン)	はい	はい	はい
Sun JDK 1.4.2 (Linux のみ)、1.5.0 ベータ 2 (Windows および Linux)	はい	はい (Windows)	いいえ

インテル VTune アナライザは、Microsoft Platform SDK の 2003 年 10 月バージョンで動作を確認しています。

4. 製品のダウンロード方法

注意: ダウンロードする前に、製品のシリアル番号を登録してください。

1. インテル プレミア・サポートのサイトへ行き、ログインします。

<https://premier.intel.com/> (英語)

2. [Accept] をクリックした後、左側のメニューより [File Downloads] をクリックします。
3. [Product] リストから任意の製品を選択し、[Display File List] ボタンをクリックします。
4. ダウンロード可能な製品が表示されるので、その中から最新版のファイルを選択してダウンロードします。

購入後 2 年目以降は、年間サポートサービス更新 (SSR) をお買い求めいただくことで、これらのサポートサービスを引き続きご利用いただけます。

5. インストール

注意: このバージョンをインストールする前に、インテル® VTune™ パフォーマンス・アナライザの以前のバージョンを**必ずアンインストール**してください。リモートデータ収集用に、インテル VTune パフォーマンス・アナライザの以前のバージョンで、Linux* および Intel XScale® テクノロジ・ベースのシステム上にインストールされた、データコレクタも同様です。詳細は、11 ページの「インテル VTune アナライザのアンインストール」セクションを参照してください。

ファイル VTuneAnalyzer7.2_EULA.rtf には、インテル VTune アナライザのライセンス契約書が含まれています。インテル VTune アナライザをインストールするには、インストール中に、このライセンス契約に同意する必要があります。

ライセンスのインストール

インストールの前に有効なライセンスの取得が必要です。プレミア・サポートにご登録いただくと、ライセンスファイルが電子メールで送られます。ライセンス・ファイルは拡張子 .lic のテキストファイルとして、VTune が検索可能な場所に保存する必要があります。VTune は、以下の場所からライセンスを検索します。

- 環境変数 INTEL_LICENSE_FILE で指定された場所
- /opt/intel/licenses/
- /opt/intel_cce_80/licenses/
- カレント・ディレクトリ

インストールに関する一般的な注意

- カウント式ライセンスでインテル VTune アナライザをインストールする場合、カウント式ライセンスで許可された数のインテル VTune アナライザが既に実行されている場合、インストール中にライセンスが無効であることを知らせるメッセージが表示されます。この問題を解決するには、システムで実行されているインテル VTune アナライザの 1 つを終了してから、インストールをやり直してください。
- マルチユーザ・システムで、そのマシンの別のユーザのインテル VTune パフォーマンス・アナライザ

イザの評価期限が切れていると、他のユーザが評価版を実行した場合にも、評価期限が切れたことを知らせるメッセージが表示されます。この問題の解決方法は、インテル® プレミア・サポート <https://premier.intel.com/> (英語) までお問い合わせください。

- インテル VTune アナライザの以前のバージョンで変更したグローバル設定を使用するには、(インテル VTune アナライザの以前のバージョンの ...shared¥bin¥<username> ディレクトリにある) ファイル vtenv.stg を %APPDATA%¥VTune にコピーします。
- インテル VTune アナライザは、ネットワーク・ドライブにはインストールできません。
- インテル VTune アナライザは、Itanium® プロセッサを使用しているシステムの %WINDIR%¥System32 および %WINDIR%¥SysWOW64 システムフォルダにはインストールできません。

Windows* 版インテル VTune アナライザ 7.2 のインストール

インテル VTune アナライザ 7.2 を CD-ROM からインストールするには:

1. CD-ROM を CD ドライブにセットします。
2. デフォルト・ブラウザで自動再生ページが表示されたら、左の [Installation] セクションでインテル VTune アナライザを選択します。表示されたページで、[Install Now] ボタンをクリックします。自動再生ページが表示されない場合は、[マイ コンピュータ] を開いて、CD-ROM ドライブをダブルクリックし、Autorun.exe をダブルクリックします。

インテル VTune アナライザ 7.2 をインターネットからインストールするには:

1. Windows システムに適切な自己解凍形式の圧縮ファイルをダウンロードします。詳細は、9 ページの「製品のダウンロード方法」を参照してください。
2. Windows システムにインテル VTune アナライザ 7.2 用の有効なライセンス (*.lic) ファイルがあることを確認します。ない場合は、ライセンス・ファイル入手します (1 ページの「製品の登録方法」を参照)。ライセンス・ファイルの場所は、インストール中に指定します。

注意: インテル VTune アナライザ 7.1 用のライセンスが有効であれば、インテル VTune アナライザ 7.2 用に新しくライセンス・ファイル入手する必要はありません。

3. ステップ 1 でダウンロードした自己解凍形式の圧縮ファイルを実行して、InstallShield* Wizard の指示に従います。
4. 自動再生ページ (Index.htm) が表示されたら、左の [Installation] セクションでインテル VTune アナライザを選択します。表示されたページで、[Install Now] ボタンをクリックします。

Windows システムにインストールする際の注意:

- インテル VTune アナライザがシステムプロセスのモジュールを正しく追跡できるようにするには、インテル VTune アナライザを Administrators グループに所属しているアカウントから実行してください。
- システムへの接続にターミナル・サーバ・クライアントを使用している Microsoft* Windows Server* 2003 システムにインテル VTune アナライザをインストールして、インストール・プログラムの指示に従ってシステムを再起動しなかった場合、ログオフしてから、システムに再ログインしてください。この操作を行わなかった場合、インテル VTune アナライザのライセンス・ファイルが正しく認識されません。

- コールグラフ・データを収集するには、インテル VTune アナライザのインストール・ディレクトリに対して、[フル コントロール] のアクセスが許可されていなければなりません。
- サンプルング・データを収集するには、ユーザ・アカウントに [システム パフォーマンスのプロファイル] および [単一プロセスのプロファイル] 権利が割り当てられていなければなりません。割り当てられていない場合、インテル VTune アナライザはサンプルを収集しません。ドメイン設定はローカルシステム設定よりも優先される点に注意してください。
- Microsoft Windows Server 2003 でサンプルング・データを収集するには、ユーザ・アカウントに [グローバル オブジェクトの作成] 権利が割り当てられていなければなりません。
- ユーザ・アカウントに権利を割り当てるには：
 - a. Administrators グループに所属しているアカウントで [スタート] ボタンをクリックします。
 - b. [コントロール パネル] (Windows 2000 の場合は [設定] > [コントロール パネル]) を選択します。
 - c. [管理ツール] を選択します。
 - d. [ローカル セキュリティ ポリシー] ユーティリティを選択します。
 - e. [ローカル ポリシー] で、[ユーザー権利の割り当て] を選択します。
 - f. 画面の右側で、必要な権利をダブルクリックします。
 - g. インテル VTune アナライザを使用する、権利が必要なユーザを追加します。
 - h. 他の必要な権利について、ステップ e-f を繰り返します。

インテル VTune アナライザのアンインストール

1. [コントロール パネル] を開きます。
2. [プログラムの追加と削除] (Windows 2000 の場合は [アプリケーションの追加と削除]) を選択します。
3. [VTune(TM) Performance Analyzer] を選択してから、[削除] ボタンを選択します。
4. 削除の確認で、[はい] をクリックします。インテル VTune アナライザがインストールしたファイルが削除されます。データベース・ファイル (*.ldb および *.mdb)、サンプルング出力ファイル、およびコールグラフ・インストールメンテーション・ファイルなどのインストール後に作成されたファイルは削除されません。

注意: インストール中に、特定のインテル VTune アナライザ・ファイル (DLL、EXE、および OCX) が登録されます。登録により、様々なエントリが Windows レジストリに追加されます。アンインストール中に、使用されていないファイルの情報はレジストリから削除されますが、いくつかの不必要なレジストリ・エントリが残ってしまうことがあります。これらのレジストリ・エントリは残ったままでも特に問題はありません。どうしても削除したい場合は、手動で削除してください。しかし、レジストリ・エディタの使用を誤ると、重大な問題が発生する可能性があるため、Microsoft は、レジストリ・エディタは自らの責任で使用するよう警告しています。詳細は、Microsoft Knowledge Base Article [256986](#) を参照してください。

Java* のサポート

インテル VTune アナライザ 7.2 は、同じコールグラフで Win32* 関数と Java 関数を同時に表示できます。サポートされている Java 環境のバージョンは、「動作環境」セクションの「対応コンパイラと開発環境」の表を参照してください。

Itanium ベースの Linux システムにおけるリモートでの Java プロファイリングがサポートされました。プロファイリングは、ウィザードの [Remote] ダイアログ・ボックスから行います。

Microsoft .NET テクノロジーのサポート

インテル VTune アナライザは、Microsoft Visual Studio .NET にプラグインされます。サンプリングおよびコールグラフ・データ収集を、Microsoft Visual Studio .NET IDE から直接起動できます。インテル VTune アナライザ 7.2 も、独立したツールとして、IDE から起動できます。

Microsoft の INTDIA80.DLL ファイルはベータ版です。製品版として利用しないでください。Microsoft からこのファイルの新しいバージョンが提供された時点で、このファイルの利用を中止してください。ライセンス条件については、エンド・ユーザ・ライセンス契約を参照してください。

6. サポート サービスおよび 2 年目以降の更新

製品には、初年度の年間サポートサービスが含まれています。

年間サポート サービスには以下のサービスが含まれます：

- 最新版へのアップグレード
- 技術サポート

年間サポート サービスをご利用いただくには、インテル® プレミア サポートへの登録が必要です。登録方法は、1 ページの「2. 製品の登録方法」をご覧ください。

2 年目以降は、SSR (サポートサービス更新) をお買い求めいただくことで、新規購入価格の半額以下でサポートサービスを引き続きご利用いただけます。

7. 日本語マニュアル

インテル製品の日本語マニュアル、カタログ、体験版を無料でダウンロードいただけます。

インテル® ソフトウェア開発製品の日本語マニュアルは、エクセルソフト株式会社のサイトより無料で提供しております。お気軽にダウンロードしてご利用ください。

<http://www.xlsoft.com/jp/products/intel/download.html>